

2025年7月に奄美大島で採集した水生昆虫

中峯 浩司*

Aquatic insects collected on Amami Ōshima in July 2025

NAKAMINE Kouji*

はじめに

琉球列島の中部に位置する奄美大島は、国立公園地域や世界自然遺産地域を有し、豊かな森林生態系が広がる島である。そして、その昆虫相は本州系要素や東南アジア系要素に加えて琉球列島固有種を含み、きわめて豊かである。しかし、当館による奄美大島における昆虫資料の収集は、大隅諸島やトカラ列島と比較すると十分とは言えず、とくに水生昆虫については、資料数がきわめて少ない状況にある。

また近年、県本土では、ため池の改修工事や水田地帯の区画整備、湿地の埋め立て、さらに農業従事者の減少や高齢化に伴う水田の減少および放棄による乾燥化などにより、各地で水辺環境が失われ、または悪化している。この傾向は島嶼地域においても同様であり、水生昆虫の生息環境は急速に減少しているものと考えられる。

このような状況下において、水生昆虫の生息状況を把握しておくことは、生態系の保全や種の保存を検討するうえで重要な基礎資料となる。今回、7月8～10日に奄美大島において昆虫資料の収集を行う機会を得た。本稿では、収集した昆虫類のうち、水生昆虫類について報告する。

1 調査方法

水生昆虫の調査は、主に奄美大島の北部および南部において7月9日および10日に行った(図1)。採集はすべて水網(メッシュサイズ1mm)を用いたすくい取りによって実施し、ライトトラップなどの装置は使用しなかった。

2 調査結果

記録はいずれも2025年のものであり、採集者もすべて筆者であるため、これらの記載を省略した。種の配列は中島ほか(2020)にしたがった。

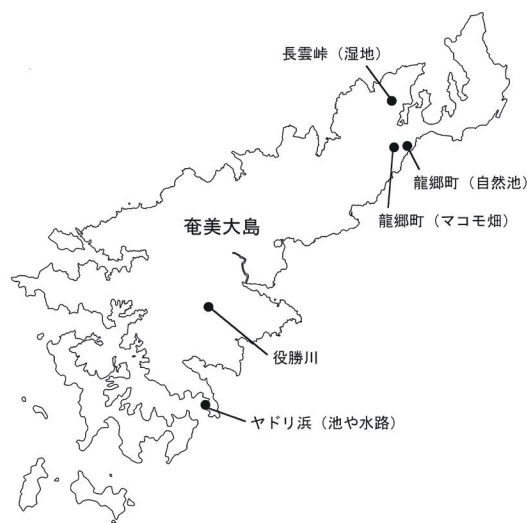


図1 採集地

コウチュウ目 COLEOPTERA

コガシラミズムシ科 Haliplidae

- ・シナコガシラミズムシ *Peltodytes sinensis* (Hope, 1845)
瀬戸内町ヤドリ浜(道路脇の池, 5頭, 7月9日)
(キャンプ場水路, 34頭, 7月9日)

水路は泥が堆積して植物が繁茂しており、本種が多産した。

コツブゲンゴロウ科 Noteridae

- ・コツブゲンゴロウ *Noterus japonicus* Sharp, 1873
龍郷町大勝(休耕田, 2頭, 7月10日)
龍郷町龍郷長雲峠(湿地, 23頭, 7月9日)
長雲峠の湿地に多産した。
- ・ツヤコツブゲンゴロウ *Canthydrus nitidulus* Sharp, 1882

- 瀬戸内町ヤドリ浜(キャンプ場水路, 51頭, 7月9日)
龍郷町大勝(休耕田, 1頭, 7月10日)

ヤドリ浜のキャンプ場水路に多産したが、同じ富栄養の環境を好む前種コツブゲンゴロウは見つからなかった。

ゲンゴロウ科 Dytiscidae

- ・コケシゲンゴロウ *Hyphydrus pulchellus* Clark, 1863
龍郷町大勝 (マコモ畑, 9 ♂ 3 ♀, 7月10日) (休耕田, 1 ♂, 7月10日)
龍郷町龍郷長雲峠 (湿地, 3頭, 7月9日)
種子島以南に分布するが (中島ほか 2020), 種子島では近年得られておらず, 奄美大島においても減少が危惧される。
- ・アマミマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus seminaries* Motschulsky, 1860
龍郷町大勝 (休耕田, 2 ♂ 他 16頭, 7月10日)
龍郷町龍郷長雲峠 (湿地, 1 ♀, 7月9日)
森・北山 (1993) を参照し, 雄交尾器先端の形状から本種と同定した (図 2)。
- ・コマルケシゲンゴロウ *Hydrovatus acuminatus* Motschulsky, 1859
瀬戸内町ヤドリ浜 (キャンプ場水路, 1 ♂ 1 ♀ 他 7頭, 7月9日)
龍郷町大勝 (マコモ畑, 1 ♂, 7月10日)
森・北山 (2002) を参照し, 雄交尾器先端の形状から本種と同定した (図 3)。
- ・アマミチビゲンゴロウ *Hydroglyphus amamiensis* (M.Satô, 1961)
龍郷町大勝 (休耕田, 3頭, 7月10日)
- ・タイワンセスジゲンゴロウ *Copelatus tenebrosus* Régimbart, 1880
龍郷町大勝 (休耕田, 1 ♂ 7 ♀, 7月10日) (マコモ畑, 1 ♀, 7月10日) (自然池, 1 ♂, 7月10日)
龍郷町龍郷長雲峠 (湿地, 3 ♀, 7月9日)
森・北山 (2002) を参照し, 雄は交尾器の形態から (図 4), 雌は外部形態から本種と同定した。
- ・チンメルマンセスジゲンゴロウ *Copelatus zimmermanni* Gschwendtner, 1934
瀬戸内町ヤドリ浜 (キャンプ場水路, 1 ♀, 7月9日)
中島ほか (2020) を参照し, 上翅に 10 条の縦溝があることから, 本種と同定した。
- ・マメゲンゴロウ *Agabus japonicus* Sharp, 1873
龍郷町大勝 (休耕田, 1 ♂, 7月10日)
- ・オキナワセスジゲンゴロウ *Hydaticus vittatus* (Fabricius, 1775)
大島郡龍郷町大勝 (マコモ畑, 4 ♂, 7月10日)
本種は種の保存法で特定第二種国内希少野生動物種 (販売・頒布の目的で行う捕獲・陳列・広告・譲渡等は原則禁止) に指定されている。今回採集したのはマコモ畑で, 周囲に生える植物の中から得られた (図 5)。

- ・ウスイロシマゲンゴロウ *Hydaticus rhanoides* Sharp, 1882
瀬戸内町ヤドリ浜 (道路脇の池, 1 ♂ 1 ♀, 7月9日)
龍郷町大勝 (休耕田, 6 ♂ 2 ♀, 7月10日)
- ・トビイロゲンゴロウ *Cybister sugillatus* Erichson, 1834
瀬戸内町ヤドリ浜 (道路脇の池, 1 ♂ 1 ♀, 7月9日)
(キャンプ場水路, 1 ♂, 7月9日)

ガムシ科 Hydrophilidae

- ・マメガムシ *Regimbartia attenuata* (Fabricius, 1801)
龍郷町大勝 (休耕田, 1頭, 7月10日)
- ・チビマルガムシ *Paracymus orientalis* d'Orchymont, 1925
瀬戸内町ヤドリ浜 (道路脇の池, 21頭, 7月9日)
(キャンプ場水路, 13頭, 7月9日)
龍郷町大勝 (休耕田, 11頭, 7月10日) (マコモ畑, 1頭, 7月9日)
各地で多くの個体が見られた。
- ・ミナミチビマルガムシ *Paracymus atomus* d'Orchymont, 1925
龍郷町大勝 (休耕田, 2頭, 7月10日)
Minoshima & Inahata (2019) を参照し, 体長が 2 mm に満たないこと, および上翅の点刻が微細で対になった点刻から構成されることから, 本種と同定した。チビマルガムシと同所的に確認されたが, 個体数は少ないようである (図 6)。
- ・ヒメガムシ *Sternolophus rufipes* (Fabricius, 1792)
龍郷町大勝 (休耕田, 21頭, 7月10日)
- ・ミナミヒメガムシ *Sternolophus inconspicuus* (Nietner, 1856)
瀬戸内町ヤドリ浜 (道路脇の池, 1頭, 7月9日)
奄美大島初記録となる。中島ほか (2020) を参考に, 後胸腹板突起が腹部第 2 節に達しないことから本種と同定した (図 7)。奄美群島では沖永良部島, 徳之島, 喜界島 (今坂・祝, 2007), 加計呂麻島 (相蘇ほか 2023) から記録がある。
- ・チビヒラタガムシ *Enochrus esuriens* (Walker, 1858)
龍郷町大勝 (休耕田, 4頭, 7月10日) (マコモ畑, 5頭, 7月10日)
- ・クロヒラタガムシ *Peltochares atropiceus* (Régimbart, 1903)
瀬戸内町ヤドリ浜 (道路脇の池, 1頭, 7月9日)
龍郷町大勝 (休耕田, 9頭, 7月10日)
龍郷町龍郷長雲峠 (湿地, 8頭, 7月9日)
松井英司氏より提供いただいた雄交尾器および中胸腹板のスケッチを参照し, 本種と同定した (図 8)。
- ・コクロヒラタガムシ *Chasmogenus abnormalis* (Sharp, 1890)

瀬戸内町ヤドリ浜キャンプ場（水路, 1 頭, 7 月 9 日）
龍郷町大勝（休耕田, 1 頭, 7 月 10 日）
龍郷町長雲峠（湿地, 16 頭, 7 月 9 日）
松井英司氏より提供いただいた雄交尾器および中
胸腹板のスケッチを参照し, 本種と同定した（図 9）。

・ウスグロヒラタガムシ *Enochrus uniformis* (Sharp, 1884)

瀬戸内町ヤドリ浜（道路脇の池, 5 頭, 7 月 9 日）（キャ
ンプ場水路, 28 頭, 7 月 9 日）

龍郷町大勝（マコモ畑, 5 頭, 7 月 10 日）

龍郷町大勝（休耕田, 1 頭, 7 月 10 日）

ヤドリ浜のキャンプ場水路では個体数が多かった。

・ルイスヒラタガムシ *Helochares pallens* (MacLeay, 1825)

瀬戸内町ヤドリ浜（道路脇の池, 4 頭, 7 月 9 日）（キャ
ンプ場水路, 4 頭, 7 月 9 日）

龍郷町大勝（休耕田, 11 頭, 7 月 10 日）（マコモ畑,
5 頭, 7 月 9 日）

・アカヒラタガムシ *Helochares anchoralis* Sharp, 1890

龍郷町大勝（休耕田, 3 頭, 7 月 10 日）

南西諸島では宝島以南に分布し, 普通種とされて
いる（中島ら 2020）。

・セマルガムシ *Coelostoma stultum* (Walker, 1858)

瀬戸内町ヤドリ浜（道路脇の池, 1 頭, 7 月 9 日）

ドロムシ科 Dryopidae

・リュウキュウムナビロツヤドロムシ *Elmomorphus*
amamiensis Nomura, 1959

龍郷町大勝（半田川, 1 頭, 7 月 10 日）

ヒメドロムシ科 Elmidae

・アカハラアシナガミゾドロムシ *Stenelmis hisamatsui*
M.Satô, 1960

奄美市上役勝（役勝川, 2 頭, 7 月 9 日）

・アマミミゾドロムシ *Ordobrevia amamiensis amamiensis*
(Nomura, 1957)

奄美市上役勝（役勝川, 65 頭, 7 月 9 日）

龍郷町大勝（半田川, 66 頭, 7 月 10 日）

・ナガツヤドロムシ *Zaitzevia elongata* Nomura, 1962

奄美市上役勝（役勝川, 8 頭, 7 月 9 日）

・マルナガアシドロムシ *Grouvellinus subopacus*
Nomura, 1962

奄美市上役勝（役勝川, 1 頭, 7 月 9 日）

カメムシ目 HEMIPTERA

ミズムシ科 Corixidae

・エサキコミズムシ *Sigara septemlineata* (Pavia, 1918)

瀬戸内町ヤドリ浜（道路脇の池, 1 ♂ 2 ♀, 7 月 9 日）
（キャンプ場水路, 47 ♂ 64 ♀, 7 月 9 日）

龍郷町大勝（休耕田, 17 ♂ 35 ♀, 7 月 10 日）（マ
コモ畑, 1 ♂ 2 ♀, 7 月 10 日）（自然池, 1 ♀, 7 月
10 日）

・トカラコミズムシ *Sigara distorta* (Distant, 1911)

龍郷町大勝（休耕田, 1 ♂ 1 ♀, 7 月 10 日）（マ
コモ畑, 7 ♂ 8 ♀, 7 月 10 日）（自然池, 2 ♀, 7 月
10 日）

マツモムシ科 Notonectidae

・クロイワコマツモムシ *Anisops kuroiwae* Matsumura,
1915

龍郷町大勝（休耕田, 1 ♂ 4 ♀, 7 月 10 日）（マ
コモ畑, 35 ♂ 35 ♀ 幼生 1 ♂, 7 月 10 日）（自然池,
5 ♂ 2 ♀, 7 月 10 日）

マコモ畑の脇にある植物が繁茂する水路で多数を
確認した。同じ場所でヒメコマツモムシ, ハナダカコ
マツモムシおよびイシガキコマツモムシが確認されたが,
本種が優占していた。

・イシガキコマツモムシ *Anisops occipitalis* Breddin,
1905

龍郷町大勝（マコモ畑, 1 ♀, 7 月 10 日）（自然池,
2 ♂ 1 ♀, 7 月 10 日）

・ヒメコマツモムシ *Anisops tahitiensis* Lundblad, 1934

瀬戸内町ヤドリ浜（道路脇の池, 1 ♂ 2 ♀, 7 月 9 日）
（キャンプ場水路, 44 頭, 7 月 9 日）

龍郷町大勝（休耕田, 1 ♂, 7 月 10 日）（マコモ畑,
4 ♂ 2 ♀, 7 月 10 日）（自然池, 8 ♂ 12 ♀, 7 月
10 日）

龍郷町龍郷長雲峠（湿地, 1 ♀, 7 月 9 日）

・ハナダカコマツモムシ *Anisops nasutus* Fieber, 1851

龍郷町大勝（マコモ畑, 1 ♂, 7 月 10 日）

マルミズムシ科 Pleidae

・マルミズムシ *Paraplea japonica* (Horváth, 1904)

瀬戸内町ヤドリ浜（道路脇の池, 6 頭, 7 月 9 日）（キャ
ンプ場水路, 11 頭, 7 月 9 日）

龍郷町大勝（休耕田, 11 頭, 7 月 10 日）（マコモ畑,
1 頭, 7 月 10 日）

タマミズムシ科 Helotrephidae

・エグリタマミズムシ *Heterotrepes admorsus* Esaki &
Miyamoto, 1959

龍郷町大勝（半田川, 幼虫 33 頭, 7 月 10 日）

大美川の支流である半田川は, マコモ畑に接して

流れる水量の少ない小川である。本種は、川岸に生育するダンチクの枯葉が水中に垂れ込んだ場所において、葉ごとすくい取ることで多数採集された。これらの個体は同所に集中していたものと考えられ、石の下やシダ類の葉が水中に垂れ込んだ場所などでは確認されなかった。採集個体は主に終齢幼虫またはそれより若齢の幼虫であったが、捕獲時にはごく少数の成虫も含まれており、これらは飼育目的で幼虫とともに生体のまま持ち帰った（図 10）。

ミズカメムシ科 Mesoveliidae

- ・マダラミズカメムシ *Mesovelia japonica* Miyamoto, 1964
瀬戸内町ヤドリ浜（道路脇の池, 1♂ 5♀, 7月9日）
龍郷町大勝（半田川, 2♀, 7月10日）（自然池, 2♀, 7月10日）
龍郷町龍郷長雲峠（湿地, 4♂ 1♀, 7月9日）
- ・ミズカメムシ *Mesovelia vittigera* Horváth, 1895
瀬戸内町ヤドリ浜（道路脇の池, 4♂ 7♀, 7月9日）（キャンプ場水路, 1♂ 4♀, 7月9日）

イトアメンボ科 Hydrometridae

- ・オキナワイトアメンボ *Hydrometra okinawana* Drake, 1951
瀬戸内町ヤドリ浜（道路脇の池, 5♂ 10♀, 7月9日）（キャンプ場水路, 1♀, 7月9日）
龍郷町大勝（自然池, 3♂ 4♀, 7月10日）（休耕田, 1♀, 7月10日）
龍郷町龍郷長雲峠（湿地, 1♂ 6♀, 7月9日）

カタビロアメンボ科 Veliidae

- ・ケンカタビロアメンボ *Microvelia douglasi* Scott, 1874
龍郷町大勝（自然池, 3♂ 6♀, 7月10日）
雄の右交尾鉤の形状から本種と同定した（図 11）。
- ・ナガレカタビロアメンボ属の一種 *Pseudovelia* sp.
龍郷町大勝（半田川, 有翅型 1頭, 7月10日）
正確な同定が困難であるため、種の同定は今後の研究に委ねる

アメンボ科 Gerridae

- ・ヒメセスジアメンボ *Neogerris parvulus* (Stål, 1860)
龍郷町大勝（自然池, 1♂ 7♀, 7月10日）
- ・アマミアメンボ *Aquarius paludum amamiensis* (Miyamoto, 1958)
瀬戸内町ヤドリ浜（道路脇の池, 1♀, 7月9日）（キャンプ場水路, 1♀, 7月9日）
龍郷町大勝（半田川, 1♂ 2♀, 7月10日）

- ・シマアメンボ *Metrocoris histrio* (White, 1883)
龍郷町大勝（半田川, 1♂ 1♀, 7月10日）

ミズギワカメムシ科 Saldidae

- ・ミズギワカメムシ科の一種
瀬戸内町ヤドリ浜（道路脇の池, 成虫 1頭・幼虫 1頭, 7月9日）
正確な同定が困難であるため、種の同定は今後の研究に委ねる（図 12）。

3 おわりに

今回の調査では、2目 15科 47種（未同定種を含む）を採集し、標本化した後、すべて当館に収蔵した。中でも、ミナミヒメガムシは奄美大島における初記録種であり、注目される。

また、今回の採集地の一つである龍郷町のマコモ畑は、オキナワスジゲンゴロウの良好な生息地である可能性が示唆された。ただし、案内してもらったマコモ畑の所有者である長谷場氏によると、除草剤を散布した後、それまでよく見られた本種をあまり見かけなくなったという。この減少は、除草剤そのものの影響のほか、本種が植物の豊富な浅く開けた湿地を好むことから（中島, 2020）、除草剤により水中植物が失われた結果、生息しにくくなった可能性も考えられる。急激な個体数の減少が見られる種の中には、農薬等の直接的影響に加え、微環境の消失による影響を強く受ける種が存在することもあるため、保全対策を考える際には考慮する必要がある。

謝辞

今回の調査にあたり、所有されるマコモ畑での調査をご快諾いただくとともに調査にご同行いただいた長谷場洋一郎氏、ならびに長谷場氏へのご連絡および調査日程の調整にご尽力いただいた奄美大島世界遺産センター管理運営協議会の森山和也氏の両氏に、深く感謝申し上げます。

また、クロヒラタガムシとコクロヒラタガムシの同定にあたり、ご助言を頂いた相蘇巧氏ならびに相蘇氏にご連絡いただいた市丸智規氏、加えて資料として両種の交尾器等のスケッチをご提供いただいた松井英司氏に厚く御礼申し上げます。

引用文献

相蘇 巧・宮崎裕輔・土屋昂靖（2023）奄美群島加計呂麻島における水生昆虫類 6種（鞘翅目 3種 および半翅目 3種）の初記録。Fauna

Ryukyuna, 67: 15–20.

今坂正一・祝輝男（2007）喜界島で2007年に採集した甲虫．*Satsuma*, (137): 119–129.

Minoshima, Y. N. & Inahata, N. (2019) First Record of *Paracymus atomus* OrchymOnt (Coleoptera, Hydrophilidae) from Japan, with Key to the Japanese Species of *Paracymus*. *Elytra*, Tokyo, New Series, 9 (2): 285–288.

森正人・北山昭（2002）改訂版図説日本のゲンゴロウ．231pp. 文一総合出版，東京．

中島淳・林成多・石田和男・北野忠・吉富博之（2020）ネイチャーガイド日本の水生昆虫．351pp. 文一総合出版，東京．

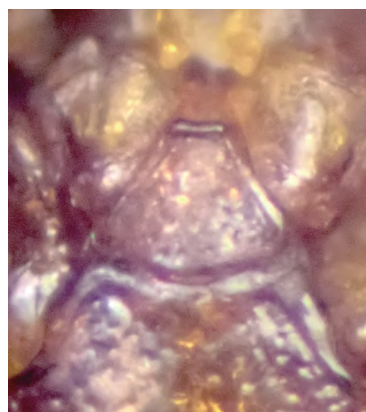
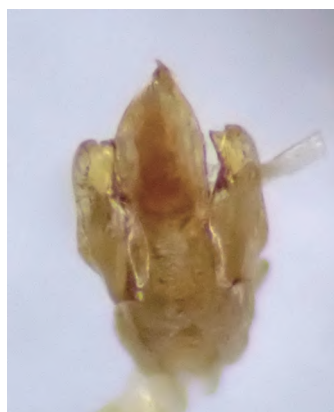
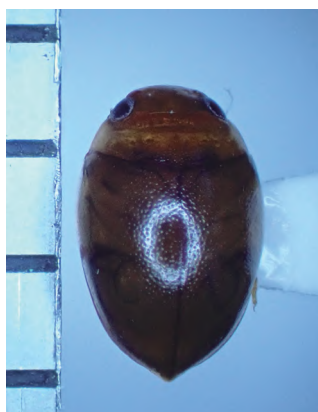


図2 アマミマルケンゲンゴロウ
左：全形 中：雄交尾器

右：中胸腹板

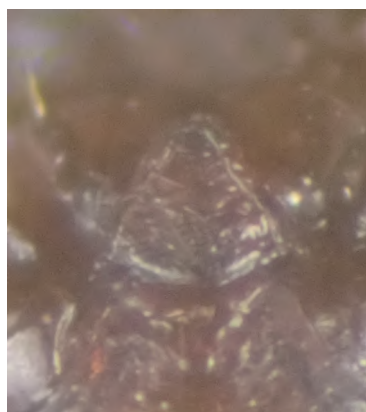
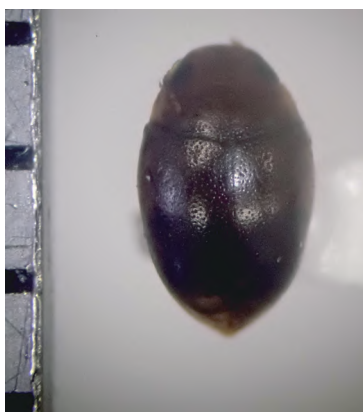


図3 コマルケンゲンゴロウ

左：全形 中：雄交尾器中央片先端 右：中胸腹板



図4 タイワンセスジゲンゴロウ
雄交尾器中央片



図5 オキナワセスジゲンゴロウ
左：捕獲直後 右：生息環境（マコモ畑）

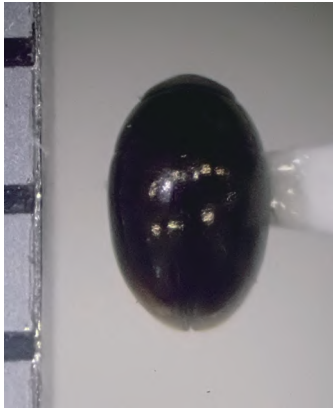


図6 ミナチビマルガムシ 左：全形、右：上翅基部



図7 ミナミヒメガムシ腹面



図8 クロヒラタガムシ
左：全形、中：中胸腹板、右：雄交尾器

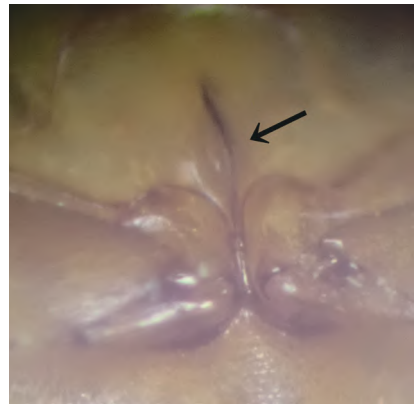
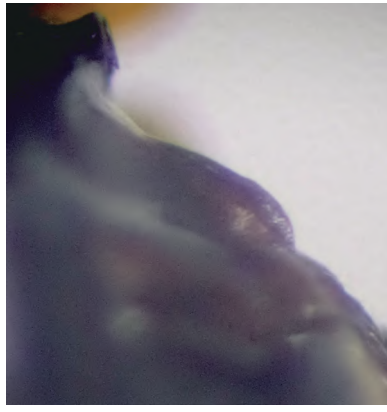


図9 コクロヒラタガムシ
左：全形 中：中胸腹板（側面） 右：中胸腹板（テネラル個体、別角度）



図10 エグリタマミズムシ成虫

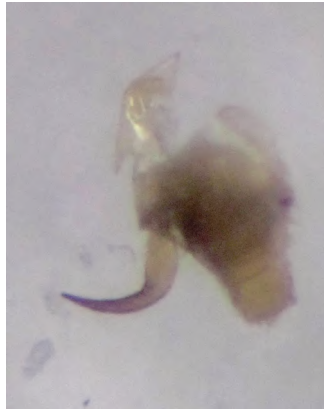


図11 ケシカタビロアメンボ
右把握器



図12 ミズギワカメムシの一種